

はじめに

住民の皆様におかれましては、日頃より消防行政に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

近代的な生活様式の進展や気象状況の変化に伴い、発生する災害の様相は複雑多様化し、その規模も大型化する傾向にあります。

埼玉県央広域消防本部は、これらの災害に対応できる新たな装備の充実を図り、職員の能力を最大限活用する体制の構築を進めるため、最新機器の導入と教育訓練を行い、より一層の消防力の強化に務め「安全で快適な住民生活の向上」を目指し、日夜努力を重ねております。

この消防年報は、当消防本部における消防行政を取り巻く現況を紹介し、実態をご理解いただくことを目的に刊行しました。

内容につきましては、原則として歴年とし、予算等に関する事項については会計年度によるものであります。

この年報が、災害の予防と消防の資料として皆様のお役に立てば幸いです。

令和6年10月

埼玉県央広域消防本部

消防の目的と任務

消防の目的

火災を予防し、警戒し及び鎮圧し、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、火災又は地震等の災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行い、もつて安寧秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資することを目的とする。

消防の任務

消防は、その施設及び人員を活用して、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことを任務とする。

目 次

組合市の紹介	1
広域化までのあゆみ	3
埼玉県央広域消防本部の沿革	8
埼玉県央広域事務組合管理者・副管理者・議長・副議長歴代名簿	13
埼玉県央広域事務組合議員	16
消防長歴代名簿	17
《消防情勢》	
埼玉県央広域消防本部の概要	21
埼玉県央広域事務組合事務局及び消防組織機構	23
消防本部事務分掌	25
消防署事務分掌	29
消防機関の配置状況	32
消防本部・署の位置及び庁舎の概要	33
消防職員の配置状況	34
消防職員階級別勤続年数	35
消防職員階級別年齢	36
消防職員数の推移	37
消防職員資格・免許取得状況	38
消防職員教養・研修実施状況	39
一般市民等の組合表彰状況、職員の表彰状況	42
広報・広聴	43
消防相互応援協定等	44
《消防施設》	
消防本部・署車両配置状況	49
救命ボート等配置状況	51
主要消防資機材保有状況	52
後方支援小隊資機材一覧	55
災害対応資器材備蓄状況、感染防止資器材備蓄状況、開発等協議・指導件数	57
消防水利状況	58
119番通報受信状況	59
通信施設等の状況	61
《予防業務》	
防火対象物状況	65
届出等事務処理件数、消防同意件数	66
防火対象物の立入検査件数、露店等の立入検査件数	67
防火管理者要選任対象物状況	68
中高層建築物組合市別状況、住宅防火推進地区指定状況	69

危険物施設数及び事業所数市別状況	70
危険物施設数	71
危険物施設の立入検査実施件数、危険物処理状況	72
過去の危険物安全週間推進標語	73

《火災統計》

組合市別火災状況	77
月別火災発生件数・り災世帯数等	78
月別焼損棟数・損害額等	79
月別・原因別火災発生状況	80
組合市別・火災原因別火災発生状況	81
過去の全国統一防火標語	82

《救急・救助》

救急出動市別状況	85
救急出動月別状況、ドクターカー要請数及び連携数、ドクターヘリ要請数及び連携数	86
救急隊員の行った応急処置の状況	87
年齢区分別搬送人員、傷病程度別搬送人員	88
現場到着所要時間別出動状況	89
救命講習等の実施状況	90
救助出動市別状況、地震・大雨・洪水等の体制	91
過去5年間の災害出動件数	92

《気象》

気象情報受理件数、天候別日数	95
年間気象状況、年間風向状況	96

《消防団》

鴻巣市消防団	99
鴻巣市鴻巣消防団	100
鴻巣市吹上消防団	102
鴻巣市川里消防団	104
桶川市消防団	105
北本市消防団	108
消防団組織機構図	111
消防団施設一覧表	113
消防自動車等配置状況	115
市別団員数	117
団員階級別勤続年数	118

組合市の紹介

鴻巣市の位置

位 置		面 積	
北 緯	36度03分58秒	67.44km ²	
東 経	139度31分17秒	海 抜	15.44m

鴻巣市のプロフィール

市の花……パンジー 市の木……けやき

鴻巣市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、南西部には秩父山地を源流とする荒川が流れています。関東ローム層や荒川沖積層からなる肥沃な土地で、気候にも恵まれ、花卉や果樹などの栽培に適しています。

昭和29年に1町5村（鴻巣町、箕田村、田間宮村、馬室村、笠原村、常光村）が合併して県内17番目の市として誕生した本市は、江戸時代には中山道の宿場町として栄え、約400年の伝統を誇る「ひな人形のまち」として、また近年では「花のまち」としても全国にその名が知られています。平成17年10月1日に、吹上町、川里町と合併し、新鴻巣市が誕生しました。

現在では、首都圏50キロメートル圏内という地理的条件に恵まれ、東京のベッドタウンとして、また、県中部の中核都市として発展を続けています。

桶川市の位置

位 置		面 積	
北 緯	36度00分10秒	25.35km ²	
東 経	139度33分30秒	東 西	8.0km
海 抜	20.8m	南 北	4.0km

桶川市のプロフィール

市の花……ツツジ 市の木……けやき

その昔、江戸から10里、近隣からの農産物の集散地という地の利を得て、人々が自然に集まってくるため、中山道の宿場町として栄えました。

時代は移り、戦後の昭和30年に桶川町・加納村・川田谷村の合併が行われ桶川町として、ほぼ現在の姿が完成しました。

現在でも、中山道沿いには宿場町当時のおもかげを残すところがそこここに見うけられます。宿場町として発展の基礎がすえられた桶川の街ですが、明治以降は、麦、さつまいも、べに花などの集散地として大変栄え、堂々たる蔵造りの店が現在も残り、当時の繁栄を今に伝えています。

そんなおもかげを残しながらも、新しい人々が移り住み豊かな暮らしが息づいています。

桶川市は、「学び豊かな 笑顔あふれる 幸せ未来都市 おけがわ」の実現を目指して、着実な歩みを進めています。

北本市の位置

位 置		面 積	
北 緯	36度01分36秒	19.82km ²	
東 経	139度31分48秒	東 西	5.8km
海 抜	24.4m	南 北	5.3km

北本市のプロフィール

市の花……菊

市の木……桜

北本市は昭和46年11月3日に埼玉県内で33番目の市として誕生しました。

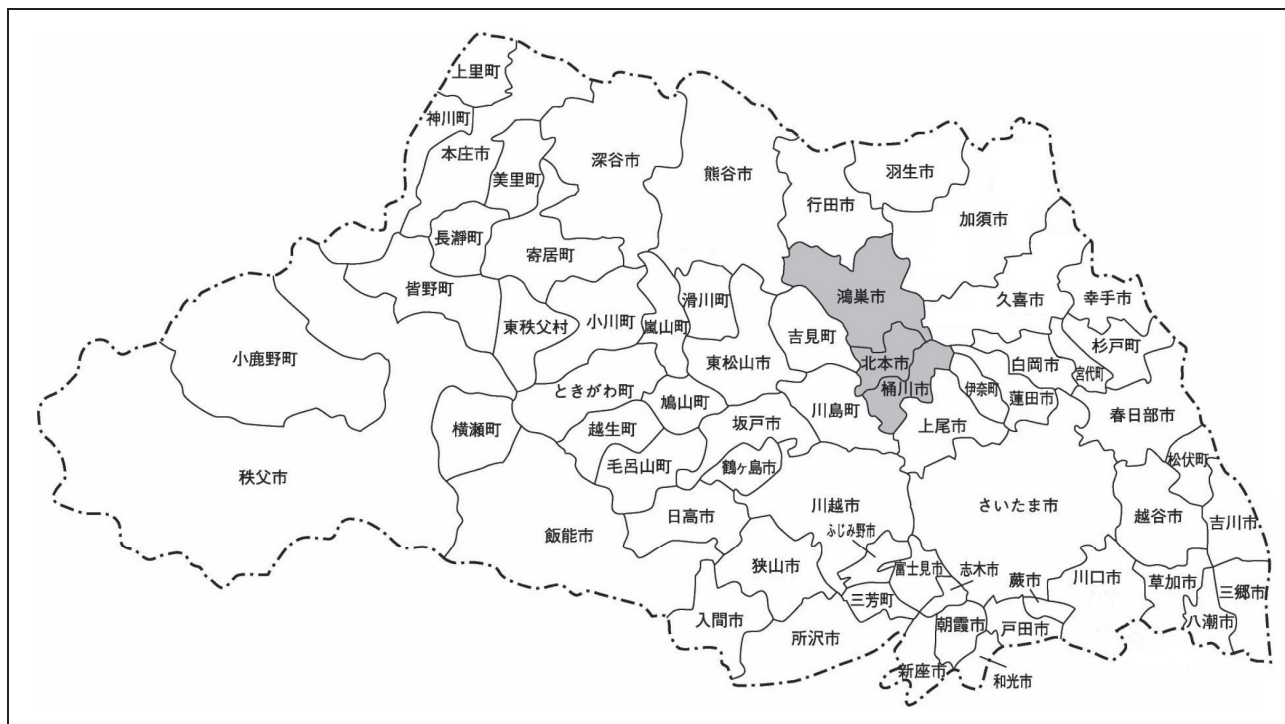
本市は埼玉県の中央部に位置し、首都圏45キロメートルという立地条件にありながら、美しい里山や雑木林が暮らしと隣り合う、穏やかな緑のグラデーションを描くまちです。

市制施行時に約3万4千人であった人口は、現在では約6万5千人となり、自然と人々が共生しながら発展を続けています。

大宮台地の最高地点でもある北本市は、地震や水害などが少なく、「災害に強いまち」として高く評価されているほか、北本自然観察公園や雑木林などの緑が日常に寄り添っており、里山の散策やキャンプ、農業体験など、四季を通じて自然と触れ合えるのが特徴です。

また、デーノタメ遺跡をはじめとする縄文時代の遺跡が多いことは、古くから人々が豊かな自然とともに安心して暮らせる場所として選ばれてきた証しでもあります。

今後も先人たちが築き、守ってきた歴史と文化、そして豊かな緑を次世代へと継承しつつ、「緑に囲まれた健康な文化都市」として成長し続けるまちとして、将来を見据えた持続可能なまちづくりを目指しています。



《広域化までのあゆみ》

1 鴻巣地区消防組合の沿革

- 昭和39年4月 鴻巣市消防団内に常備部を設置。常備部は、職員7名、水槽付消防ポンプ自動車1台にて消防業務を開始
- 昭和41年9月 鴻巣市消防本部及び消防署を設置
職員26名、水槽付消防ポンプ自動車1台、普通消防ポンプ車1台にて消防業務を開始
- 昭和42年10月 救急自動車を購入し、救急業務を開始
- 昭和44年6月 普通消防ポンプ自動車1台が寄贈され、鴻巣消防署に配備
8月 船外機付水難救助用舟艇を購入し、鴻巣消防署に配備
- 昭和45年4月 北本市と救急業務に関する応援協定を締結
9月 川里村と救急業務に関する応援協定を締結
- 昭和46年11月 桶川市と消防相互応援協定を締結
- 昭和47年1月 行田市と救急業務に関する応援協定を締結
8月 救急自動車1台が寄贈され、鴻巣消防署に配備
- 昭和48年2月 化学消防ポンプ自動車を購入し、鴻巣消防署に配備
5月 北本市と消防相互応援協定を締結
- 昭和49年11月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、鴻巣消防署に配備
- 昭和50年11月 鴻巣市・吹上町・川里村の一市一町一村で消防行政事務について共同処理することに合意し、埼玉県知事の許可を得て鴻巣地区消防組合を設立
- 昭和51年4月 鴻巣地区消防組合消防本部及び消防署を設置し、職員76名にて業務を開始
6月 吹上分署仮庁舎にて消防業務を開始
11月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、吹上分署に配備
- 昭和52年2月 救急自動車1台が寄贈され、吹上分署に配備
吹上分署にて救急業務を開始
5月 吹上分署の庁舎が完成
10月 普通消防ポンプ自動車を購入し、吹上分署に配備
12月 鴻巣消防署の救急自動車を更新
- 昭和53年7月 桶川市と消防相互応援協定を締結
10月 鴻巣消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
- 昭和54年7月 船外機付水難救助用舟艇を購入し、吹上分署に配備
11月 水槽付消防ポンプ自動車寄贈され、鴻巣消防署に配備
- 昭和55年4月 川里分署の庁舎が完成し、消防・救急業務を開始
- 昭和56年1月 救急自動車を購入し、川里分署に配備
- 昭和57年12月 普通消防ポンプ自動車を購入し、川里分署に配備

- 昭和59年10月 鴻巣消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
- 昭和61年3月 水槽付消防ポンプ自動車を鴻巣西分署用に購入
- 4月 消防本部の組織を1課2係制から2課6係制へ再編
鴻巣西分署の庁舎が完成し、消防・救急業務を開始
- 7月 救急自動車1台が寄贈され、鴻巣西分署に配備
- 昭和62年3月 救助工作車を購入し、鴻巣消防署に配備
- 平成元年3月 救急自動車1台が寄贈され、鴻巣消防署に配備
- 平成2年3月 鴻巣消防署の救急自動車を更新
- 平成3年3月 救急自動車1台が寄贈され、吹上分署の救急自動車を更新
川里分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
- 9月 救急自動車1台が寄贈され、鴻巣消防署に配備
鴻巣消防署の救急自動車をもって、川里分署の救急自動車を更新
- 12月 鴻巣消防署の化学消防ポンプ自動車を更新
- 平成4年12月 吹上分署の普通消防ポンプ自動車を更新
- 平成5年4月 消防本部の組織を2課制から3課制へ再編
- 平成7年4月 埼玉県中央広域消防本部に名称変更
- 平成8年4月 埼玉県中央広域消防本部・桶川市消防本部・北本市消防本部が組合消防による消防事務の共同処理を開始

2 桶川市消防本部の沿革

- 昭和43年7月 桶川町消防本部設置
消防職員15名にて発足
- 昭和44年2月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、消防本部に配備
4月 桶川町消防本部の新庁舎が完成
水槽付消防ポンプ自動車を購入し、桶川消防署に配備
10月 救急自動車を購入し、桶川消防署に配備
救急業務を開始
12月 普通消防ポンプ自動車を購入し、桶川消防署に配備
- 昭和45年11月 市制施行により、桶川町から桶川市に名称変更
桶川市消防本部と改称
- 昭和46年4月 上尾市と消防相互応援協定を締結
11月 鴻巣市と消防相互応援協定を締結
- 昭和48年5月 北本市と消防相互応援協定を締結
- 昭和51年9月 船外機付水難救助用舟艇を購入し、桶川消防署に配備
化学消防ポンプ自動車を購入し、桶川消防署に配備
- 昭和52年10月 普通消防ポンプ自動車1台が寄贈される。
- 昭和53年3月 桶川西分署の庁舎が完成し、消防業務を開始
7月 鴻巣地区消防組合と消防相互応援協定を締結
9月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、桶川西分署の普通消防ポンプ自動車を更新
- 昭和54年2月 救急自動車1台が寄贈される。
8月 蓮田市と消防相互応援協定を締結
- 昭和57年6月 資器材搬送車を購入し、桶川消防署に配備
10月 北本市と梯子付消防ポンプ自動車の使用協定を締結
- 昭和60年12月 桶川消防署の救急自動車を更新
- 昭和61年6月 桶川消防署の資器材搬送車を更新
11月 桶川消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
- 昭和62年10月 救急自動車を購入し、桶川西分署に配備
桶川西分署にて救急業務を開始
桶川消防署の化学消防ポンプ自動車を更新
- 平成2年1月 桶川西分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
- 平成4年4月 桶川消防本部の機構を再編し、救助係・救急係制を導入
- 平成5年3月 桶川消防署の資器材搬送車及び救急自動車を更新
- 平成7年2月 桶川西分署の救急自動車を更新
11月 桶川消防署の資器材搬送車を更新
- 平成8年4月 埼玉県央広域消防本部・桶川市消防本部・北本市消防本部が組合消防による消防事務の共同処理を開始

3 北本市消防本部の沿革

- 昭和44年12月 季節的常備部（12月1日から3月31日まで）を開所
- 昭和45年4月 鴻巣市と救急業務に関する応援協定を締結
- 9月 北本町職員定数条例を改正し、消防職員定数（44名）を設ける。
- 10月 普通消防ポンプ自動車1台を購入し、北本町役場総務課に配備
- 12月 北本町消防本部設置条例に基づき消防本部を設置。普通消防ポンプ自動車1台にて消防業務を開始
桶川市と救急業務に関する応援協定を締結
- 昭和46年11月 市制施行により、北本町から北本市に名称変更
北本市消防本部と改称
- 昭和47年4月 政令指定に伴い、北本市消防署を併設
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北本消防署に配備
- 昭和48年1月 救急自動車を購入し、救急業務を開始
赤バイ2台を購入し、北本消防署に配備
- 3月 北本市消防本部の新庁舎が完成
- 5月 鴻巣市・桶川市と消防相互応援協定を締結
- 7月 東松山地区消防組合と消防相互応援協定を締結
- 昭和49年4月 救助艇及び船外機（25馬力）を購入し、北本消防署に配備
- 昭和50年10月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北本消防署に配備
- 昭和51年4月 北本東分署の庁舎が完成し、水槽付消防ポンプ自動車1台赤バイ1台にて、消防業務を開始
- 11月 消防本部を2課制へ再編
- 昭和52年10月 普通消防ポンプ自動車1台が寄贈され、北本消防署に配備
- 昭和53年6月 市内局番41～43局からの119番通報が、北本市消防本部で直接受信可能となった。
- 昭和56年11月 化学消防ポンプ自動車を購入し、北本消防署に配備
- 昭和57年9月 救急自動車が寄贈され、北本消防署に配備
- 10月 消防本部を2課制から1課3係制へ再編
桶川市との消防相互応援協定を改定、及び梯子付消防ポンプ自動車の使用協定を締結
救助艇を購入し、北本消防署に配備
- 昭和58年1月 梯子付消防ポンプ自動車（30m）を購入し、北本東分署に配備
- 昭和61年3月 救急自動車を購入し、北本消防署に配備
- 11月 普通消防ポンプ自動車及び救助資器材運搬車を購入し、北本消防署に配備
- 昭和63年3月 北本消防署庁舎増築が完成
- 10月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北本東分署に配備
- 平成2年3月 救急自動車を購入し、北本東分署に配備
- 平成6年12月 普通消防ポンプ自動車を購入し、北本消防署に配備
- 平成8年4月 埼玉県央広域消防本部・桶川市消防本部・北本市消防本部が組合消防による消防事務の共同処理を開始

4 消防業務広域化の沿革

- 平成4年11月 鴻巣地区消防組合・桶川市及び北本市の消防事務を共同処理することについて研究・協議するため、県央広域消防推進協議会が発足
- 平成5年2月 県央広域消防推進協議会が作成した「県央広域消防推進に関する報告書」を、県央都市づくり協議会会長あてに提出
- 平成7年1月 鴻巣市・桶川市・北本市・吹上町・川里村の各市町村における議会において、「平成8年4月1日から鴻巣地区に桶川市と北本市を加えた消防事務の広域化」を具現化するため、消防に関する規約を改正する旨の議決がなされる。
- 2月 鴻巣地区消防組合の規約の変更について、埼玉県に許可申請
- 4月 鴻巣地区消防組合の規約の変更について、埼玉県より許可
鴻巣地区消防組合を埼玉県央広域消防本部に改称
消防の広域化を具体的作業を進めるために、消防本部内に埼玉県央広域事務組合の事務局を設置
- 12月 埼玉県央広域消防本部の新庁舎が完成
- 平成8年2月 埼玉県央広域事務組合の組合議会において、消防の広域化に伴う関係条例等の議決がなされ、消防広域化事務が終了
- 4月 埼玉県央広域消防本部に桶川市消防本部と北本市消防本部を加えて鴻巣市・桶川市・北本市・吹上町・川里村の三市一町一村で消防行政事務の共同処理を開始

《埼玉県央広域消防本部の沿革》

- 平成8年4月 三市一町一村による埼玉県央広域消防本部が発足
一消防本部（三課）・三消防署・六分署、職員284名にて消防・救急業務を開始
消防本部及び鴻巣消防署は新庁舎にて業務を開始
鴻巣消防署旧庁舎を鴻巣天神分署に改称
- 平成9年1月 高規格救急自動車を購入し、鴻巣消防署の救急自動車を更新
2月 消防施設整備計画を策定
3月 高規格救急自動車を購入し、桶川消防署の救急自動車を更新
救助工作車を購入し、北本消防署に配備
- 平成10年1月 消防ポンプ自動車（CD-I型）を購入し、鴻巣天神分署に配備
2月 消防ポンプ自動車（CD-II型）を購入し、鴻巣消防署に配備
3月 高規格救急自動車を購入し、北本消防署の救急自動車を更新
4月 消防本部の組織を再編し、3課制から4課制とした。
- 平成11年2月 救助工作車を購入し、桶川消防署に配備
北本消防署の化学消防ポンプ自動車（II型）を更新
3月 高規格救急自動車を購入し、吹上分署の救急自動車を更新
4月 組織改正により、鴻巣西分署・川里分署の警防第2係を救急係とし、3消防課・6分署の管内全署を救急専任化した。
- 平成12年2月 高規格救急自動車を購入し、川里分署の救急自動車を更新
4月 消防本部の組織を再編し、係制から担当制とした。
管理課 庶務係→人事教養担当、財務係→企画財務担当
予防課 予防係→予防担当、指導係→指導担当
警防課 警防係→警防担当、救急救助係→救急救助担当
7月 高規格救急自動車を購入し、北本東分署の救急自動車を更新
10月 緊急消防援助隊への登録を3隊（消火隊1隊、救助隊1隊、救急隊1隊）とした。
12月 桶川消防署の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
- 平成13年2月 鴻巣西分署の水槽付消防ポンプ自動車（I-A型）を更新
4月 消防本部の組織を再編し、警防課に装備担当を新設した。
消防計画第2次消防力等整備計画を策定
鴻巣消防署及び桶川消防署に特別救助隊を配置
5月 町制施行により、川里村を川里町としたことから、構成団体が三市一町一村から三市二町となる。
6月 高規格救急自動車を購入し、鴻巣天神分署の救急自動車を更新
8月 災害対応多目的車を購入し、北本消防署に配備
- 平成14年2月 桶川西分署庁舎増築が完了
3月 情報処理高度化整備事業により、音声・データ多重化装置、パソコン等を整備し、消防情報支援システムを更新

- 12月 梯子付消防自動車を購入し、北本消防署の梯子付消防ポンプ自動車を更新
- 平成15年3月 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、北本東分署の水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ-A型）を更新
- 7月 高規格救急自動車を購入し、鴻巣西分署の救急自動車を更新
- 12月 鴻巣天神分署庁舎耐震補強工事が完了
- 平成16年1月 高規格救急自動車を購入し、桶川西分署の救急自動車を更新
- 4月 消防本部の組織を再編し、警防課装備担当を警防担当に編入した。
緊急消防援助隊の登録を1隊（後方支援隊）増隊し、4隊とした。
- 11月 消防本部及び鴻巣消防署庁舎女性用仮眠室改修工事が完了
- 平成17年3月 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、桶川西分署水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ-B型）を更新
- 8月 桶川消防署の高規格救急自動車を更新
- 9月 鴻巣市主催八都県市合同防災訓練に参加した。
埼玉県知事表彰の救急医療功労者等表彰を受賞
- 10月 鴻巣市、吹上町、川里町が合併し、構成団体が三市二町から三市となる。
- 平成18年3月 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、桶川消防署水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ型）を更新
- 4月 緊急消防援助隊の登録を2隊（消火隊1隊、救急隊1隊）増隊し、6隊とした。
- 平成19年1月 第3次消防力等整備計画を策定
- 2月 災害対応多目的車を購入し、鴻巣消防署に配備
水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、吹上分署の水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ-B型）を更新
- 3月 消防庁長官表彰の表彰旗を受章
- 4月 消防本部警防課に指揮担当を新設し、指揮隊を発足した。
- 11月 鴻巣消防署の高規格救急自動車を更新
- 平成20年1月 指揮車を購入し、消防本部に配備
- 2月 水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入し、鴻巣消防署の化学消防ポンプ自動車（Ⅰ型）を更新
- 3月 桶川消防署庁舎耐震補強工事が完了
- 4月 消防本部警防課指揮担当を3部制に移行
緊急消防援助隊の登録を2隊（消火隊1隊、救急隊1隊）増隊し、8隊とした。
- 平成21年3月 桶川消防署庁舎別棟増築・改修工事が完了
- 4月 高規格救急自動車を桶川消防署に配備し、救急隊を2隊とした。
- 12月 北本消防署の高規格救急自動車を更新
- 平成22年1月 消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型 救助機能付）を購入し、北本消防署の消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型）を更新
- 12月 北本東分署の高規格救急自動車を更新
- 平成23年4月 緊急消防援助隊の登録を1隊（後方支援隊）増隊し、9隊とした。

- 11月 総務大臣表彰受章（東日本大震災功績）
- 平成24年2月 鴻巣天神分署の高規格救急自動車を更新
第4次消防力等整備計画を策定
- 3月 鴻巣天神分署の水槽付消防ポンプ自動車（I-B型）を更新
- 4月 消防本部、消防署の組織を再編し、次のように改正する。
消防本部に救急課を新設し5課制とした。
消防本部の課及び担当を次のように設置した。
消防総務課 庶務担当 職員担当 財務担当
予 防 課 予防担当 査察担当 危険物担当
警 防 課 警防救助担当 指揮1担当 指揮2担当 指揮3担当
救 急 課 救急管理担当
指 令 課 指令1担当 指令2担当 指令3担当
消防署を中隊制から課制、係制から担当制とした。
消防署の課及び担当を次のように設置した。
管理指導課 管理指導担当
消防1課及び消防2課 警防担当 救助担当 救急担当
分署 警防担当 救急担当
- 12月 吹上分署の高規格救急自動車を更新
- 平成25年2月 鴻巣消防署の救助工作車を更新
- 3月 総務省消防庁より貸与された人員輸送車を消防本部に配備
消防指令装置を高機能消防指令装置へ更新
- 4月 消防本部警防課の指揮担当を廃止し、鴻巣消防署及び北本消防署の消防1課、消防2課に指揮担当を設置した。
- 11月 川里分署の高規格救急自動車を更新
- 平成26年2月 消防ポンプ自動車（CD-I型 指揮機能付）を購入し、鴻巣消防署消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
消防ポンプ自動車（CD-I型 CAFS機能付）を購入し、川里分署の水槽付消防ポンプ自動車（I-A型）を更新
- 3月 消防救急デジタル無線設備（北本基地局及び救急隊）の運用開始
- 5月 消防救急デジタル無線設備（消防隊）の運用開始
署活動用無線局（90局）の運用を開始
- 8月 北本東分署新庁舎が完成
- 11月 桶川西分署の高規格救急自動車を更新
- 平成27年1月 桶川消防署の救助工作車を更新
- 3月 消防救急デジタル無線設備（鴻巣基地局）の運用開始
- 4月 高度救助用資機材を鴻巣消防署に整備し、高度救助隊とした。

- 8月 桶川市主催九都県市合同防災訓練に参加した。
- 11月 鴻巣西分署の高規格救急自動車を更新
- 平成28年2月 北本消防署の化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を更新
- 3月 屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入し、鴻巣消防署に配備した。
- 4月 埼玉県特別機動援助隊に鴻巣消防署高度救助隊を登録した。
緊急消防援助隊の登録を1隊（消火隊）増隊し、10隊とした。
- 平成29年2月 第5次消防力等整備計画を策定
- 3月 桶川消防署の高規格救急自動車を更新
鴻巣西分署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅰ-A型）から（Ⅰ-B型）に更新
北本消防署の災害対応多目的車を更新
- 4月 消防本部の組織を再編し、指令課を3担当制から2担当制とした。
- 11月 鴻巣消防署の高規格救急自動車を更新
- 平成30年3月 北本東分署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅱ型）から（Ⅰ-B型）に更新
- 4月 「災害時における消防用水等の確保に関する協定」締結
- 10月 「災害時における消防活動の協力に関する協定」締結
- 12月 桶川消防署の高規格救急自動車を更新
- 平成31年1月 消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型 CAFS機能付）を購入し、桶川消防署の消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型）を更新
- 2月 埼玉県主催埼玉県特別機動援助隊合同訓練（鴻巣市上谷総合公園）に参加した。
- 4月 消防本部の組織を再編し、消防総務課を総務担当と財務担当の2担当制とし、予防課を予防担当と危険物担当の2担当制とした。
緊急消防援助隊の登録を1隊（特殊装備小隊）増隊し、11隊とした。
- 令和元年9月 高機能指令装置を部分更新
- 11月 北本消防署の高規格救急自動車を更新
- 令和2年3月 桶川消防署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅱ型）から（Ⅰ-B型）に更新
- 6月 「新型コロナウイルス感染症対策用救急自動車運用要領」を策定
- 令和元年9月 埼玉県知事表彰の救急医療功労者等表彰を受賞
- 令和3年2月 桶川西分署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅱ型）から（Ⅰ-B型）に更新
- 3月 北本消防署庁舎大規模改修工事完了
北本東分署の高規格救急自動車を更新
総務省消防庁より貸与された高機能救命ボート（ILC-600 搭乗人員20人）を鴻巣消防署に配備
- 令和4年1月 「新型コロナウイルス感染症患者等の移送に関する協定書」を締結
- 2月 第6次消防力等整備計画を策定
- 3月 吹上分署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅱ型）から（Ⅰ-B型）に更新
鴻巣天神分署の高規格救急自動車を更新
- 8月 北本市主催九都県市合同防災訓練に参加した。

令和5年2月 吹上分署の高規格救急自動車を更新

3月 鴻巣消防署の水槽付消防ポンプ自動車を（Ⅱ型）から（Ⅰ-B型）に更新

令和5年8月 北本消防署のはしご付消防ポンプ自動車を更新

9月 桶川西分署の高規格救急自動車を更新

令和6年3月 北本消防署の指揮車を更新

埼玉県央広域事務組合管理者・副管理者・議長・副議長歴代名簿

1 埼玉県央広域事務組合歴代管理者

氏名	就任年月日	退任年月日	備考
佐藤輝彦	平成7年4月1日	平成14年7月31日	鴻巣市長
原口和久	平成14年8月1日	令和4年7月31日	鴻巣市長
並木正年	令和4年8月1日		鴻巣市長

2 埼玉県央広域事務組合歴代副管理者

氏名	就任年月日	退任年月日	備考
江熊芳雄	平成7年4月1日	平成16年4月2日	吹上町長
松谷利男	平成7年4月1日	平成13年5月24日	川里町長
上原榮一	平成7年4月1日	平成13年4月22日	桶川市長
新井馨	平成7年4月1日	平成11年4月30日	北本市長
加藤高	平成11年5月1日	平成15年4月30日	北本市長
岩崎正男	平成13年4月23日	平成25年4月22日	桶川市長
新井貢	平成13年5月25日	平成14年10月11日	川里町長
嶋村孝	平成14年11月25日	平成17年9月30日	川里町長
石津賢治	平成15年5月1日	平成27年4月30日	北本市長
齋藤武史	平成16年4月18日	平成17年9月30日	吹上町長
小野克典	平成25年4月23日		桶川市長
現王園孝昭	平成27年5月1日	平成31年4月30日	北本市長
三宮幸雄	令和元年5月1日		北本市長



3 埼玉県中央広域事務組合歴代議長

氏名	就任年月日	退任年月日	備考
堀口柳治	平成7年4月1日	平成7年4月30日	鴻巣市
吉田武美	平成7年7月14日	平成8年5月10日	鴻巣市
高橋節子	平成8年5月29日	平成10年5月28日	北本市
田口寿英	平成10年5月28日	平成11年12月10日	桶川市
和久津和夫	平成12年2月17日	平成12年5月29日	桶川市
新井真	平成12年5月29日	平成14年5月29日	鴻巣市
細田茂明	平成14年5月29日	平成16年5月28日	北本市
岡地優	平成16年5月28日	平成17年12月6日	桶川市
白子敏夫	平成18年2月13日	平成18年5月25日	桶川市
津久井精治	平成18年5月25日	平成19年4月30日	鴻巣市
中野昭	平成19年5月21日	平成20年5月28日	鴻巣市
黒澤健一	平成20年5月28日	平成22年5月20日	北本市
進藤功	平成22年5月20日	平成23年12月10日	桶川市
渡邊光子	平成24年2月14日	平成24年5月25日	桶川市
長嶋元種	平成24年5月25日	平成25年5月30日	鴻巣市
阿部慎也	平成25年5月30日	平成26年5月23日	鴻巣市
桂祐司	平成26年5月23日	平成27年4月30日	北本市
加藤勝明	平成27年5月25日	平成28年5月23日	北本市
市川幸三	平成28年5月23日	平成30年5月25日	桶川市
坂本国広	平成30年5月25日	平成31年4月30日	鴻巣市
金澤孝太郎	令和元年5月30日	令和2年5月28日	鴻巣市
日高英城	令和2年5月28日	令和4年5月30日	北本市
相馬正人	令和4年5月30日	令和5年12月10日	桶川市
糸井政樹	令和6年2月16日	令和6年5月27日	桶川市
橋本稔	令和6年5月27日		鴻巣市

4 埼玉県央広域事務組合歴代副議長

氏名	就任年月日	退任年月日	備考
鈴木敏夫	平成7年4月1日	平成8年4月30日	吹上町
坂本安司	平成8年5月29日	平成10年5月28日	川里村
島崎朝則	平成10年5月28日	平成12年4月30日	吹上町
田中恵司	平成12年5月29日	平成13年6月5日	川里村
相原 栄	平成13年7月25日	平成14年5月29日	川里町
丸岡治雄	平成14年5月29日	平成16年4月30日	吹上町
青木勝也	平成16年5月28日	平成18年5月25日	川里町
島野正紀	平成18年5月25日	平成19年3月30日	北本市
黒澤健一	平成19年5月21日	平成20年5月28日	北本市
進藤 功	平成20年5月28日	平成22年5月20日	桶川市
坂本 晃	平成22年5月20日	平成23年4月30日	鴻巣市
谷口達郎	平成23年5月26日	平成24年5月25日	鴻巣市
桂 祐司	平成24年5月25日	平成26年5月23日	北本市
保坂輝雄	平成26年5月23日	平成27年12月10日	桶川市
北村文子	平成28年2月22日	平成28年5月23日	桶川市
頓所澄江	平成28年5月23日	平成30年5月25日	鴻巣市
湯沢美恵	平成30年5月25日	平成31年4月30日	北本市
日高英城	令和元年5月30日	令和2年5月28日	北本市
新島光明	令和2年5月28日	令和3年12月20日	桶川市
岩崎隆志	令和4年2月17日	令和4年5月30日	桶川市
潮田幸子	令和4年5月30日	令和5年4月30日	鴻巣市
橋本 稔	令和5年5月30日	令和6年5月27日	鴻巣市
諏訪幸男	令和6年5月27日		北本市

5 埼玉県央広域事務組合議員（議席番号順）

令和6年5月27日

議席番号	氏名	就任年月日	所属	備考
1	小泉晋史	令和5年5月25日	鴻巣市	
2	矢島洋文	令和5年5月25日	鴻巣市	議会運営委員会副委員長
3	市ノ川徳宏	令和5年5月25日	鴻巣市	
4	須山陽一朗	令和5年12月11日	桶川市	
5	渡邊広美	令和5年12月11日	桶川市	
6	斉藤章	令和5年5月18日	北本市	議会運営委員会委員
7	金森すみ子	令和5年5月18日	北本市	監査委員
8	諏訪三津枝	令和5年5月25日	鴻巣市	
9	坂本国広	令和5年5月25日	鴻巣市	
10	橋本稔	令和5年5月25日	鴻巣市	議長
11	秋谷修	令和5年5月25日	鴻巣市	議会運営委員会委員
12	糸井政樹	令和5年12月11日	桶川市	議会運営委員会委員長
13	浦田充	令和5年12月11日	桶川市	議会運営委員会委員
14	諏訪幸男	令和5年5月18日	北本市	副議長
15	中村洋子	令和5年5月18日	北本市	議会運営委員会委員

消防長歴代名簿

埼玉県央広域消防本部歴代消防長名簿

氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
長 島 松 夫	平成 7 年 4 月 1 日	平成 9 年 3 月 31 日	
野 口 勝 久	平成 9 年 4 月 1 日	平成 10 年 3 月 31 日	
清 水 敏 之	平成 10 年 4 月 1 日	平成 14 年 3 月 31 日	
中 根 茂	平成 14 年 4 月 1 日	平成 19 年 3 月 31 日	
原 義 之	平成 19 年 4 月 1 日	平成 20 年 3 月 31 日	
高 橋 操	平成 20 年 4 月 1 日	平成 22 年 3 月 31 日	
坂 本 静 男	平成 22 年 4 月 1 日	平成 25 年 3 月 31 日	
秋 山 岩 夫	平成 25 年 4 月 1 日	平成 26 年 3 月 31 日	
坂 本 静 男	平成 26 年 4 月 1 日	平成 27 年 3 月 31 日	
新 井 孝 佳	平成 27 年 4 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日	
矢 島 久 男	平成 28 年 4 月 1 日	平成 30 年 3 月 31 日	
野 本 照 夫	平成 30 年 4 月 1 日	令和 2 年 3 月 31 日	
新 井 正	令和 2 年 4 月 1 日	令和 4 年 3 月 31 日	
黒 沼 浩 二	令和 4 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日	
黒 沢 高 志	令和 6 年 4 月 1 日		